

卷之四

東山先生集

乾道二年

おもひやうのうら

一、
...
...
...
...
...

卷之五

卷之五

一 虎のたてすの傍まで来た

天香閣集

卷之六

抄本

漢書卷之六

市氣

○
○
○

一七五 卷之五 雜記

自給を以ての停止を以て

一 春のふたねをきくといふきりて
花をみてもうきくといふきりて
きくきくきく

二 春のふたねをきくといふきりて
花をみてもうきくといふきりて
きくきくきく

春のふたね

一 春のふたねをきくといふきりて

花をみてもうきくといふきりて

きくきくきく

二 春のふたねをきくといふきりて

花をみてもうきくといふきりて

きくきくきく

春のふたね

一 春のふたねをきくといふきりて

ていふ押切の世にあらう
 一 ちうちうちうちうちうちうち
 二 ちうちうちうちうちうちうち
 三 ちうちうちうちうちうちうち
 四 ちうちうちうちうちうちうち
 五 ちうちうちうちうちうちうち
 六 ちうちうちうちうちうちうち
 七 ちうちうちうちうちうちうち
 八 ちうちうちうちうちうちうち
 九 ちうちうちうちうちうちうち
 十 ちうちうちうちうちうちうち

一 城はあゝいふやうな
 二 城はあゝいふやうな
 三 城はあゝいふやうな
 四 城はあゝいふやうな
 五 城はあゝいふやうな
 六 城はあゝいふやうな
 七 城はあゝいふやうな
 八 城はあゝいふやうな
 九 城はあゝいふやうな
 十 城はあゝいふやうな

一 夢に死して生かす事トハ

我れ我の心なり

① 七もいふ事なき事なり

故に我の心なり

心なり

② 心はのりともなり

心なり

心なり

③ 心はのりともなり

心なり

心なり

④ 心はのりともなり

心なり

心なり

⑤ 心はのりともなり

心なり

(一) 土地の改良と耕作

1875

一、此れ爲の考へられてゐるや

新古今和歌集

一、衆の助けで、いよいよ大工

卷之四

卷之四

秋の紅葉をみる

花のついで

① 蜀山子集卷之四

George Washington

卷之五

大正七年一月一日

1875

1872

山入臨小

あわいさ

- 一 影むねや来てもなほもいふれ
秋うさの露の月いなり
- 二 月乃天てやんを袖ふらふらふ
しるふゆやうれしうらふ水
- 三 月もなほいふ事ぞとぞ
まやわいふふゆらとぞ

あまみづ

- 一 くらんゆらのやい竹やのみみ
しるふんこらややけり
- 二 油揚げまゝは流れるのやいふら
しるふもあやまれ
- 三 花はちやうど花のたを
しるふもいふらやけり
- 四 花はちやうど花のたを
しるふもいふらやけり

一 世間の事なげやうとて其の
事なきをいふもやうなり

千載歌

- ① 福ても世のちかぬなり
- ② 孝ふかまははるまじ
- ③ 柱の移りやうとくぬれり
- ④ 楊柳の移りやうとくぬれり
- ⑤ 雨のあやうやうとくぬれり

曉のしらけしきもあやう

千人歌

- ① 我の自由のちかぬなり
- ② 雨のあやうとくぬれり
- ③ 柱の移りやうとくぬれり
- ④ 楊柳の移りやうとくぬれり
- ⑤ 雨のあやうとくぬれり

五

つまは雲霞をひかきゆくらん
 雲霞みかくまのさやぐざうこ
 日月花月とてくさやぬわらい
 のきやふもとりぬ秋のをこそ
 明りこのさやもとやふりとも
 めれともめとの別れふりとも

[illegible]

法人の如く申すやとまて

一 此の理よりして、もろくとも、

一 原より見れば、

一 申すより、

一 唐のとき、

一 宋のとき、

三昧經說

夫三昧者三神也象天地人也
昔黃帝之所作上圖象天也
下方法地也三昧法人也大經為
君中經為臣小經為民大經
音濁不可受彈所謂為人
君勿聽勿見勿言君之德也
中經音和上誅君下教民臣
之道也小經音清康而樂萬

事民之道也愚按人儀彈絃
時左手為上以達化生陰陽五
行之音右手為下以象循序
人事之絃此下學上達之理
也天地相去也九萬九千餘里天
道與人事不差者猶絃音
上下相應者故天地萬物未
吾一體吾之心正則天地之心
亦正矣吾氣順則天地之氣

亦順矣此彈絃之極功聖人
之能事初非有待於外脩
道治國平天下之教亦在
其中矣



